

映画「パピヨンの贈り物」

鈴木英文

蝶が重要な脇役を務める映画は「西部戦線異状なし(1930年版)」やジェニファー・ジョーンズとウィリアム・ホールデン主演の「慕情」などが挙げられるが、蛾が出てくる映画はあまり思いつかない。一つ邦題「パピヨンの贈り物(2002年制作)」というフランス映画を紹介する。原題は「Le Papillon」。以前も書いたがフランスでは蝶も蛾もみなPapillonと言われる。主演はベテラン俳優のミシェル・セローと、これが映画初出演で8才のクレール・ブアニツシュ。

元時計職人のジュリアン(ミシェル・セロー)はパリのアパートで独り暮らしの老人で、蝶のコレクター。アパートの一室を飼育室にして多くの蝶を飼育している。

ある日標本商よりヤマムユガ科の蛹6匹と“薄暮性の幼虫”と書かれた1匹が入った郵便物が届く。同じ日、看護助手をしているシングルマザーに連れられた9才の女の子エルザ(クレール・ブアニツシュ)が引っ越してくる。エルザは半分育児放棄されていて寂しい毎日を過ごしている。

ジュリアンは息子が病気で亡くなる前に、図鑑で見た蛾(イザベラミズアオ)を一度見たいと言っていたことから、イザベラを探し回っている。

ジュリアンはペルーで採集した珍しいフクロウチョウを標本商に売ってイザベラの生息地と発生時期を聞き出し、採集に出かけるが、その車に潜り込んで家出を図るエルザ。

最初はぎこちなかった二人の旅は、やがて心を通わせ、ほんとうの祖父と孫の様な感情を抱き始める。山の中でテントを張る二人、昼は山を歩き回り、都会しか知らないエルザが自然の事をいろいろ聞き、ジュリアンが教える。夜は灯火採集。

三日目にやっと飛来したイザベラ♀。喜んでエルザが灯火採集の白いシーツを倒して逃がしてしまい、怒られたエルザはテントに戻らず行方不明に。翌朝洞窟に落ちたエルザを見つけて警察に助けを求めるが、誘拐犯と



イザベラミズアオ：上、左：♂、右：♀
オオミズアオ：下、♂

して指名手配が来ており、エルザは無事救出されるがジュリアンは逮捕される。

誤解が解けアパートに帰ると、冒頭に標本商より届けられた正体不明の幼虫が蛹になっており、蛾は無事羽化してイザベラとわかる。ラストは二人でアパートの屋上からイザベラを夜の空に放つところで終わる。

話の基本は、大事な探し物は自宅にあった、と言う「青い鳥」童話の変形であるが、南仏の風景をバックに、老人と少女のほっこりするような話で、これぞフランス映画という感じである。

ここで登場するイザベラミズアオ(*Actias isabellae*)は、日本にもいるオオミズアオ(*Actias aliena*)と同属で南仏からスペインにかけて分布する。図のように、大きさはオオミズアオよりやや小さいが翅の外縁と翅脈部分が褐色でオオミズアオとは大分雰囲気異なる。

生息地は標高900～1800mの中高山地帯の松林で、ヨーロッパアカマツ(*Pinus sylvestris*)やヨーロッパクロマツ(*P. laricio*)を食樹とする。幼虫は地上で蛹化、蛹で越冬し、翌春4月中旬から5月下旬頃羽化する。